第2弾

ありたい姿 探検記

前回のおさらい
SDGsとは…

・「今さえよければそれでよし」の考え方を変えるもの

・たったひとつしかない地球を大切に守っていくためのもの

・「誰ひとり取り残さない」の理念のもと、お互いを助け合いましょうと伝えるもの

「良いこと・優しさ・おもいやり」をまとめた目標

第2弾では、なぜ下川町がSDGsに取り組むのかに焦点をあてます。

下川町の歩みがSDGsに繋がっていた

下川町は、今まで先人たちのたゆまぬ努力であらゆるピンチを乗り越え、「持続可能なまちづくり」を半世紀において体現してきました。下川産業クラスター研究会は「経済・社会・環境の調和による持続可能な地域づくり」を掲げ、下川町自治基本条例に「持続可能な地域社会の実現を目指す」ことが前文に位置付けられる等、下川町は元々、SDGs達成に貢献する活動を代々当たり前のように行ってきたのです。

バイオマス、森林、一の橋バイオビレッジ等、循環型森林経営を基盤とした取組が国から高く評価され、環境モデル都市、環境未来都市を始めとしたあらゆる形で選定され、持続可能なまちづくりのお手本として先陣を切って現状を変えてきたのが下川町でした。国が「ジャパンSDGsアワード」、「SDGs未来都市」を打ち出し、下川町は先進的な取組、計画で現在のSDGsの先進自治体として表彰されました。

下川町が当たり前のように行ってきた
SDGs達成に貢献する活動

使い勝手がよかった

SDGsは課題解決のための「共通言語」としても大活躍しています。例えばSDGsの視点で今までの下川町の取組を見ていくと、「町の強み、弱み」が明らかになります。また、皆さんがどこに問題意識を抱いているのかも少しずつ見えてきます。今まで「縦割りかつ個人」で考えられていたものから議論が生まれるようになるのです。下川は、町民を中心にしたまちづくりがしたい！という想いから、SDGsをツールとして注目し、取組を始めました。

自治体の役割

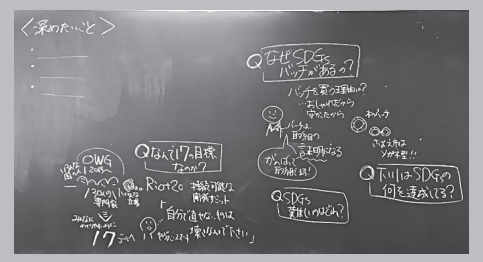
「誰ひとり取り残さない」ためには自治体の取組が重要です。国連の文書では、自治体の取組がSDGs達成のために必要不可欠だと強調しているほど期待されています。また、「誰一人取り残さない」世界は、全員がSDGsに取り組んでいることになります。そのためには町民一人ひとりにSDGsを伝え、下川町、さらには、日本、地球での生活が続くために自分に何ができるかを考え、行動することを支援しなければなりません。このように、自治体がSDGsに取り組むことは当たり前だと言えます。

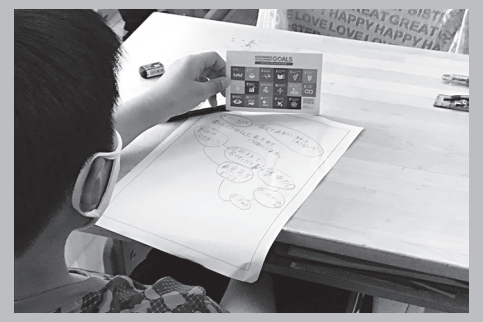
しもかわの「ここ」がすごい！

慶應大学の講義にて

日本のSDGs第一人者である蟹江憲史教授の講義で下川町とSDGsについてお話しました。約30人の学生と3時間かけて下川の未来について議論しました。質問が止まないほど大人気で、「下川町でまちづくりに携わり、学びたい!」と大きな影響を与えました。

小学校5年生の「SDGsの授業」にて





小学校5年生の授業では、下川町をSDGsの視点でみるとどうなるのかを一緒に考えました。質問タイムではたくさん興味を持ってもらえてとても嬉しかったです。これからの時代を引っ張っていく皆さん、すごい!

■お問い合わせ
政策推進課
☎４－２５１１内線２３４
☆４－２５１１０２
Fax ４－２５１７

「ありたい姿」掲示板

町民の皆さんのSDGsにつながる活動やまちづくりの関心事にお答えするコーナーです。“町内の面白い活動は？”“こんなことがしたい、知りたい”“私が気軽にできる取組はこれだ！”などなど、皆さんの声をお寄せください。

「ありたい姿」掲示板 お問い合わせ

手書きの場合
行政情報コーナーの「知恵の環」提出用紙に記入し、ポストに投函、または、ファックスで送信してください。

インターネットの場合
ホームページ（以下URL、またはQRコード）からご利用いただけます。
https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/section/2020/03/chienowa.html